

## はくさいのマキバカスミカメ（新寄主）

令和2年、清水町において収穫期のはくさいの葉身に1～2mm程度の不定形の穴が点在する症状および中肋に褐色の隆起または陥没といった症状が発生した。また集荷場で結球部にカメムシ類の幼虫の寄生が確認された。令和3年、ほ場内を調査したところ、マキバカスミカメ *Lygus rugulipennis* (Poppius) の成幼虫が寄生した株で同様の症状が確認された。ほ場での上記症状の発生は8月上旬から中旬にかけて集中していた。

ポット苗を用いて同種の成虫の接種試験を行ったところ、葉身と中肋に同様の症状が再現された。

本種は道内でかぼちゃやメロン、レタスやスイートコーン、小豆やねぎなど各種作物への寄生が確認されている。

（十勝農試・十勝農業改良普及センター十勝西部支所）



はくさいのマキバカスミカメ

（左上：葉の被害、右上：中肋の被害、左下：成虫）

（十勝農業改良普及センター西部支所 石山氏 原図）